

「振り込め詐欺」未然防止のために

「すぐに振り込まない」・「1人で振り込まない」

振り込め詐欺の被害は、依然としてなくなればかりか、新しい手口が現れ、最近、再び増加傾向にあります。

「オレだよ、オレ」と家族のふりをして電話をかけ、金が必要と、うそをついて多額の現金を指定した預貯金口座に振り込ませる、いわゆる「オレオレ詐欺(恐喝)」をはじめ、「架空請求詐欺(恐喝)」、「融資保証金詐欺」、「還付金等詐欺」の四つの犯罪類型を総称して「振り込め詐欺(恐喝)」といいます。中でも、税務署や社会保険事務所をかたつて、還付金がある」とうそをつき、ATM(現金自動預け払い機)を操作させて多額の現金を振り込ませる、「還付金等詐欺」という新しい手口が急増しています。



振り込む前に、もう一度、「事実の確認」をしてください

「振り込め詐欺、自分は大丈夫」、本当に大丈夫ですか？

振り込め詐欺の犯人は、たいてい振り込むことを急がせてきます。家族に「大事があったと言われ、気が動転している状態」で急がされると、冷静な判断ができなくなり、つい犯人の言うことを聞いてしまいます。

さらに、振り込め詐欺の犯人は、息子さんの将来に傷がつくから誰にも話さないで、「銀行の窓口では、息子が車を買うためのお金だと言って」などと、こちらの心理状況を手玉に取り、巧妙な話術でだましてきます。

このような場合、まずはこらえて、ひと呼吸しておくことが大切です。必ず誰かに相談して、冷静な目で事態を判断してもらいましょう。

不審に思ったなら直ちに相談を

北秋田警察署 ☎621245(緊急は110番)
県民安全センター ☎0188649110

「架空請求詐欺」(恐喝)

事例 不特定多数の人に、架空のサービス利用料を請求する内容の郵便や電子メールなどを送り、お金を振り込ませる手口です。裁判所などの公的機関や架空の債権回収会社を装い、時には、月、日までに振り込まなかったら、法的手段に訴える」などと脅迫的な言葉を用います。



身に覚えがない請求には応じない

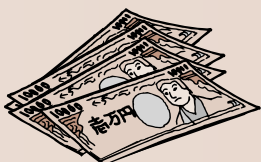
被害者 10〜30歳代の女性が約32%を占め、特に20歳代以下の女性が約19%を占め最も多くなっています。若年層のほとんどが有料サイト利用料金詐欺の被害者です。

最近の特徴 総務省やNHK等の公的機関の名前で、地上デジタル放送のアンテナ受信端末切替工事費が必要なので、指定口座に工事費を振り込んで」などのハガキなどが届くケースや、携帯電話にきたメールに記載されたアドレスをクリックしただけで、高額な入会金を請求するなど、手口が一段と巧妙になっています。

対策など 利用した覚えがなければ、現金を振り込まないこと。相手に連絡しないこと。相手に自分の住所・氏名を教えないこと。見覚えのない送信元からのメールに表示されているアドレスにはアクセスしないこと。

融資保証金詐欺

事例 実際には融資しないにもかかわらず、多重債務者などに「低金利で融資します」、「債務を一本化します」などと書かれたハガキや電子メールなどを送りつけ、融資を申し込んできた人に対し、融資が可能か審査しますので、信用を担保するため、保証金としてお金を振り込んでください」などと言って、保証金名目に現金を預貯金口座に振り込ませるなどの方法によりだまし取る手口です。



お金を借りるのにお金を振り込みますか？

被害者 40歳代から50歳代の男性の被害者が全体の28%を占めています。30歳代から40歳代の女性の被害者が全体の23%を占めています。

最近の特徴 実在する金融機関や貸金業者、あるいはその関係会社を装い、商号、ロゴマーク、登録番号等を盗用して融資を持ちかける、偽ダイレクトメール、折込広告、雑誌広告など、極めて精巧に作られているものが増加しています。

対策など 実在する貸金業者等を装っている場合があるので、融資を申し込む場合は、必ず電話帳や番号案内等で電話番号を調べ確認する。正規の貸金業者では、保証金や借入金データの抹消などいかなる名目であっても、融資を前提に現金を振り込ませることは絶対ありません。

いわゆる「オレオレ詐欺」(恐喝)

事例 「オレだよ、オレ」と電話がかかってきて、「うっかり、(息子などの名前)」などと問い直すと、「そう、。実は会社のお金を使い込んでしまった。今日中に返済しないとクビになる」と言われ、指定された銀行口座にお金を振り込ませま。また、犯人は、警察官や弁護士を装って「お宅の息子さんが交通事故を起こした」などと電話してきて示談金の名目でお金を振り込ませるものや、会社における横領の補てん金、サラ金の借金返済など、その手口も変化しています。



「だまされない」準備と心構えが大切です

被害者 60歳代の女性の被害者が全体の約30%と最も多く、次に70歳代の女性約22%、50歳代の女性約13%の集計です。

最近の特徴 交通事故に見せかける手口でも、サイレンのほか、被害者とされる相手の泣き声や事故処理の慌ただしい効果音などを吹き込み、不安をあおる事案も発生しています。

対策など 自分から先に息子や孫などの名前を言わず、相手に名乗らせること。相手に家族の名前や住所を聞くなどして、本人かどうかが確認すること。電話を切った後、必ず本人やその家族、勤務先等と連絡を取り、事実を確認すること。

還付金等詐欺

事例 社会保険事務所などの職員を装い、あたかも年金などを還付する手続きであるかのように装ってATM(現金自動預け払い機)まで誘導し、ATMを操作させて現金を振り込ませる手口です。「暗証番号」や「通信番号」などと称する6ケタ程度の数値を告げられ、被害者は犯人の指示に従ってATMの金額欄にその数字を入力し、知らず知らずのうちに現金の振り込み手続きをさせられてしまいます。



犯人はあなたの大切なお金を狙っています

被害者 60歳代以上の女性の被害者が、全体の約53%を占めています。被害者の多くは、無人のATMへ誘導されています。

最近の特徴 税務署や社会保険事務所、リフォーム会社などを名乗り、「税金」や「高齢者医療保証金」以前家をリフォームした時の返戻金」の還付(返戻)があるのだまし、「キャッシュカードと残高のある通帳を持って、今すぐATMまで行って携帯電話で再度連絡して」などと指示されます。

対策など 税務署や社会保険事務所が電話で指示し、ATMを操作させることはありません。番号案内や電話帳で、税務署や社会保険事務所の電話番号を調べ、必ず確認する。金融機関に行き、振り込み限度額を少額に設定するなど、万一被害に遭った場合の対策をおきましょう。